

事務事業名	総合センター管理事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連				
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課		
施策名	計画 21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一		
基本事業名	体系 80	生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備		担当者名	渡辺 良輔	電話番号 (内線)	096-248-5555 1503		
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 02	事業 総合センター事業	法令根拠			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 平成8 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 総合センター「ヴィーブル」の維持管理事業 (業務の内容) 総合センターの維持管理に係る各種の契約事務、各所の工事管轄、事務用機器の賃貸借、備品や消耗品、燃料の補給などを行い、市民の要望に応じた利用しやすい施設環境を整える。 (予算の内訳) 需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費、) 役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費						総 投 入 量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)	0	
							トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

各種公共料金支払、施設清掃監理、空調設備管理、樹木監理等、各システム賃借料
メインアリーナ開口部補強工事

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

公共下水道接続工事(建物部分)、その他18年度と同様

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

総合センター「ヴィーブル」の施設を快適に利用してもらう

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

施設が快適に利用できるようになり、市民の利用が増える。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 物件費の事業費実績額	
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 施設が快適になったと思う市民の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 施設を利用する市民の数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円		1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	
			一般財源	千円	81,068	97,552	99,744	103,600	96,600	96,600	
			事業費計 (A)	千円	0	81,068	98,952	101,144	105,000	98,000	98,000
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	9	9	9	9	9	
		延べ業務時間	時間	500	500	670	670	670	670	670	
		人件費計 (B)	千円	1,250	1,250	2,660	2,660	2,660	2,660	2,660	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,250	82,318	101,612	103,804	107,660	100,660	100,660	
活動指標			アイウ								
対象指標			アイウ								
成果指標			アイウ								
上位成果指標			アイウ								

事務事業名	総合センター管理事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成8年4月に総合センターが開館し、旧合志町における生涯学習施設の一大拠点となり、施設の維持管理が必要になった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
生涯学習、生涯スポーツの一大拠点として、多くの市民に利用され、あるいは全国大会規模の屋内スポーツや県内屈指の文化ホールを利用した催し物など、スポーツや文化芸術面での振興に果たした役割は大きい。
建築後10年を経過しており、近いうちに設備の一部を経年更新する必要があるが、計画的に整備しないと一時期に莫大な費用を要することになる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
毎年、維持管理経費も多額であるため、施設利用が有効か、快適な施設の環境が保たれているかを問う声が時折議会から出ている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 施設設備の維持管理は、利用者には必要最小限のサービスであり、快適な施設設備の提供は、政策と結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 総合センター施設を市民全体の財産として活用していくため、必要な維持管理は行政の責任において行わなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 経年とともに施設の利便性低下を抑えるため、必要な費用を確保していくことで成果も向上する。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 施設の改修を怠ると、多数の利用者に不快感を与え、次第に施設の安全性を欠くことになり、市民に危険な施設を提供し続けることになる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の施設は他にもあるが、経年も異なり連携や共同の事業実行は困難である。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 巨大な施設であり、光熱水費用の無駄を省き、施設設備の近代化改修などの努力で削減は可能である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 管理体制の人的配置は必要最小限であるため、削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 施設利用の際には、受益者負担の原則により施設使用料の負担をいただいているが、旧西合志町の施設が採用している「冷暖房使用料」も検討の必要がある。

合志市

事務事業名	総合センター管理事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

施設が巨大であるため維持管理費用も多額であるが、経年とともに費用もかさみ、必要な施設の改修は計画的に行って一時期に多額の投資を要さないようにしたい。

また、日頃から経費節減に努め、無駄を省く努力を続けて行きたい。

利用者にも維持管理費用の膨大な額を知っていただき、より公平な受益者負担の方法も検討したい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☒ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

必要な施設の改修を計画的に行うことで一時期に多額の投資を要さないようにしたい。

また、日頃から経費節減に努め、無駄を省く努力を続けて行きたい。

利用者にも維持管理費用の膨大な額を知っていただき、より公平な受益者負担の方法も検討したい。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

今後実行すべき施設の改修計画も多額の費用を要すると思われ、財政との折り合いをどうつけるかが課題である。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項